

世界的な自動車部品大手、独ボッシュの企業城下町ともいえた埼玉県東松山市が変貌している。

製造業でボッシュの工場再編を機に車部品中心から食品関連を柱とした企業誘致を進め、流通では大型商業施設が相次いで新規立地。都市計画道路の整備などで宅地開発も進展し、一時減少が続いていた人口は増加に転じた。県内で人口減に悩む他の自治体にも参考になるかもしれない。

東武東上線東松山駅近くの大型商業施設「ビバモール東松山」。2020年にホームセンターや食品スーパーなど30店超を集めて開業、市内内外の客でにぎわう。市内の商業施設では10年に開業した県中部最大級の「ピオニウォーク東松山」に次ぐ規模だ。

ビバモール東松山は十数年前に閉鎖されたボッシュの東松山第二工場の跡地に立地し、敷地面積は4・2ヘクタール。閉鎖前は約600人の従業員が働いていたという。一部とは

埼玉 東松山、産業振興で人口増

独ボッシュ工場再編を機に

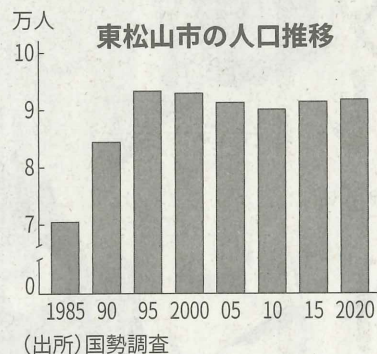


ボッシュの東松山第二工場跡地にできた「ビバモール東松山」は市外からも客を集めてにぎわう

食品中心に企業誘致転換 道路整備で宅地開発進展

いえ、市内最大の企業ボッシュの工場閉鎖は「大総合メーカーの目世（大分県大分市）の工場などから新たな工業団地などへの誘致に成功した」（商工観光課）。

当初は近くの寄居町に工場進出が決まったホンダの部品メーカーなどに狙いを定めたが、08年のリーマン・ショックの影響もあり、不調に終わった。そこで需要変動がより小さく安定雇用も見込める食品関連中心に戦略を転換、10年代半ばにヤオコーのデリカ・生鮮セ



時代の本格化でさらに事業変革が必要になる可能性が高い。商業施設も近隣の深谷市花園地区で秋に約120店が入るアウトレットモールが開業、競争激化が見込まれる。

ただ、東松山市では単純な企業誘致にとどまらない産業振興策にも力を入れる。市や埼玉りそな銀行、地域の事業会社などの出資で16年に設立した東松山起業家サポートファンドを通じて市内に本社を置く成長性の高い未公開企業に出資、新たな企業育成を目指す。